



ごあいさつ

明日の観光大津を創る会会長
大津町町長 家入 勲

平成元年から多くの方々の熱意と協働で支えられてきた「からいもフェスティバルinおおづ」は、お陰様で20回の節目を迎えることとなりました。当初は昭和園での開催で、「ふれあいの中のふるさとづくり」に共感する皆さんによる手作りですスタートしました。経済情勢の大きな変化の時期でもあり、如何に工夫したら町の活性化に繋がるか、住民主導による試行錯誤の中で意義あるイベントが始まりました。丹精こめられた大津の美味しい「からいも」や、フェスティバルの楽しさに来場者は増加し続けました。第3回からは本田技研工業株式会社熊本製作所の多大なご協力で、現在の会場へと移りました。現在では、県内外における認知度も高く、ビッグイベントと評されています。

毎年5月末には、「からいも植え付け大会」を行い、11月の「からいもフェスティバル」開催の時期には、一番美味しい「からいも」に育ちます。たくさんの家族連れやいろいろなグループの人たちが、一生懸命にからいもを掘る姿はほのぼのとして楽しそうに感じられます。

「からいもフェスティバルinおおづ」は、これからも関係機関並びにボランティアのみなさんにご協力をいただきながら「元気のある大津町」の発展を目指していきたいと思ひます。

最後に、これまでに「からいもフェスティバル事業」等にご支援、ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

20回目を
延べ、
60万人の
楽しんで
次の目標は、
100万



<明日観立上げ時のメンバー>



大塚 鷹之介
初代運営本部長



山東 繁幸
明日観総務委員



中村 正章
二代目運営本部長



坂本 寛
現運営本部長



高本 梢
明日観総務委員

20回目を迎えて

大塚／「からいもフェスティバルinおおづ」をはじめから、今年で20回という節目を迎えました。立上げのときから関わっている5人の「明日の観光大津を創る会」（明日観）のメンバーに集まってもらいました。当時のことを思い出しながら、そして、今後のことも含めて話を進めたいと思ひます。

山東／明日観が組織された当時は、バブルのはじける前で、日本全体が好景気感にあふれ、各地に日本一づくり運動が展開され、町づくりのサークルや組織がたくさん出来ました。

中村／当時の西岡町長の、行政主導でなく民間と「協働」という形で盛り上げよう、それが一番町の発展につながるという提案に、皆が賛同して明日観はスタートしたのですが、結果的に大成功だったと思ひます。

高本／その頃大津には、春の「つつじ祭」夏の「地藏祭」が定着していて、もうひとつ秋にも何か町づくりを喚起するイベントが求められていたのですが、「つつじ祭」

を迎え、

方に、
いただきました。

万人です。



祝 辞

本田技研工業(株)熊本製作所
所長 渡部勝資様

この度は、「からいもフェスティバル」20周年を迎えられ、本当におめでとうございます。

20年という長い間開催を続けられるというのは、関係者の方々の並々ならぬ努力があってこそだと思います。大津町といえば、『からいも』というイメージが一番に思い浮かぶのも、「このからいもフェスティバル」あってこそだと思います。

弊社も、開催場所の提供はもちろんの事、ダンボールクラフトや子供安全教室、製品展示などでイベント参加をさせて頂いており、従業員もたいへん楽しみにしているイベントのひとつとして定着をしております。毎年8月の『ホンダ夏祭り』と合せ、地域の皆様とふれあえる場、身近に感じれる場があるというのは、大変素晴らしい事だと思います。

ぜひ今後も、「からいもフェスティバル」の継続、発展を宜しくお祈りいたします。



が観光目的であり、「地蔵祭」は古くからのいわゆる地域のお祭でしたので、今度は産業につながるものということで、既存の産業祭を発展させる形で、大津の特産である「からいも(甘藷)」をテーマにしたイベントに落ち着きました。

大塚/そのイベントを明日観が中心となって組み立てていくということになりました。明日観メンバーは「つつじ祭」や「地蔵祭」でイベントにはある程度慣れていましたが、ゼロからのスタートとなると大変でした。鹿児島島の山川に視察研修に行ったり、開始後も各地への研修を重ねるなど大変でした。皆、それぞれに仕事を持っていての上ですから。

山東/手作りでいこう。業者に頼らず可能な限り自分達のパワーとエネルギーでやり抜こうと、皆でタックルが組めたのが良かったんだと思います。やってるうちに段々と大津が大好きになったんですから。

中村/そうですね、苦労すればするほど大津への愛着が育ってきたのは事実ですね。何しろここで培われた人と人とのつながりは何よりも大きいものがあります。でもね、いまでこそ「からいも」の認知度は高いけど、大

津町の代表として取り上げる事に、いささかの抵抗感をいう声もありました。大津には他の優れた農産物もありますからね。

高本/でも、今では「からいも」と言えば大津、大津といえば「つつじとからいも」というくらい定着してきました。そのことのもたらす他のことへの相乗効果は大きいと思います。

坂本/今になって思うと「からいも」で良かったなあと思いますよ。泥まみれになってからいも掘りを愉しんでいる子供さんを見ると、胸が熱くなるくらい嬉しくなります。立ち上げ時にはPRも大変でした。

大塚/熊本市下通や博多駅でのキャンペーン、また、各メディアへの売り込みと慣れないことばかりでしたが、やるからには成功させたいと、皆、必死でした。お陰で今では、熊本を代表するイベントになりました。

山東/日本一作り運動として始ったイベントが100年に一度といわれる経済状況の悪化のなかでも明るく賑やかに続いているのは、大変誇らしいことだと思っています。

